

1. 組織名

岐阜県

2. 提出意見①

該当する交渉分野

原産地規則

意見

○自動車原産地規則について

UAW(米国自動車労組)は、TPP協定交渉における自動車の原産地規則について、要望書を10月31日に公表しました。

その要望項目の中で、TPP税率の適用を受けるためには、輸出品のうちどれだけTPP内で付加価値を付けられ、どれだけがTPP以外の地域からの輸入に起源するかを示す「full tracing report」を輸出者に求めています。

予め定められた一定の基準による輸出国の原産国の判断ではなく、原産国の異なる部材で構成され組み立てられた部品について、その完成に至るまでのすべての部材の原産国の把握が必要となり、完成品を輸出する際には原産国に関する膨大なデータを要することとなることから、輸出企業に大きな負担になることが予想されます。

TPP協定においては、TPP加盟国内で統一ルールを持って、輸出国で原産地判定を行う運用が妥当と考えます。

(以下、UAWの主張の抜粋)

Tracing of imported sub-assemblies, including validation provision. For example, when an engine assembled in TPP Country A from 35% non-TPP inputs and 65% TPP inputs is assembled into a finished car in TPP Country B, 35% of the cost of the engine will be counted as non-originating content for purposes of determining the assembled car's RVC (=regional value content). Exporters will be required to provide a full tracing report for exported auto components.

※ 同一の交渉分野について、2つ以上意見等を提出される場合は、「提出意見」の行をコピーの上、行を追加願います。

※ 異なる交渉分野について意見等を提出される場合は、シートを分けて記入・提出願います。